地域ケア会議参加に向けた研修会後の意識変化

佐賀県薬剤師会

在宅医療委員会　冨永雄介

目的

高齢になっても住み慣れた地域で尊厳のある暮らしが出来るように、地域包括ケアシステムの構築が求められており、その実現のために市町において地域ケア会議が行われている。多職種協働で個別ケースの課題分析などを行い、高齢者支援の充実とそれを支える社会基盤の整備を目指すもので、専門職として薬剤師の派遣依頼が増加している。佐賀県薬剤師会では、薬剤師が地域ケア会議助言者として専門的見地から的確な助言を行うために、また地域ケア会議助言者となる薬剤師の増員を目的として地域ケア会議参加に向けた研修会を実施した。

方法

研修会の前後で同じ質問内容のアンケートを実施し、薬剤師の地域ケア会議助言者としての意識変化を調査・分析した。また事後アンケートには今後、地域ケア会議助言者として参加するための地域・薬局・氏名の記入欄を付けた。

結果

介護保険の基本理念、地域ケア会議の開催意義、助言者に求められる事、今後の課題、地域ケア会議の実例紹介に関する講演により、薬剤師が助言をする場合の考慮するポイントに変化が見られ、地域ケア会議助言者への参加希望者が　２７名増加した。

考察

今回の研修会で、地域ケア会議に対する基本的な考え方や薬剤師助言者としての役割を学ぶことにより、地域ケア会議事例対象者の生活背景や生きがい、自立を阻害する要因についてまで考慮した助言が多くなることが考えられる。

今後も継続的に研修会を実施することで、薬剤師の地域ケア会議助言者としての質の向上と参加者の増員を行っていく必要がある。